

第71回 大阪府青少年読書感想文コンクール

小学校中学年の部 特選

賢明学院小4年 山田暁貴（やまだ・あき）さん

◇友だちに理由はいらない

バラクラバ帽はきっとトミーの「心のかさぶた」だ。本を読み始めてすぐに、表紙や挿絵のトミーを見てピンとききました。ぼくはお姉ちゃんが進路に悩んで塾に行かなくなった時、応援するつもりで頑張れと言ったら余計に傷つけてしまったことがあります。その時に教わりました。心の傷のかさぶたは、いつか自分ではがせる日が来ること。そしてまわりの人が無理にはがしてはいけないことを。

トミーのクラスメイトも気づきました。上級生が暴力でバラクラバ帽をはぎとろうとするのを、みんなで必死に防ぎます。そしてかぶっている理由を心理作戦で聞き出すことも中止しました。それどころか、バラクラバ帽をクラス全員でかぶって、同じ気持ちになってみようとしたのです。そしてついに、トミーはバラクラバ帽をかぶっている理由を、ドゥーガルとドゥミサニに語り出しました。ぼくはいよいよ心のかさぶたがとれる時が来たと、ワクワクしてページをめくりました。

ところがバラクラバ帽をかぶっている理由は、とてもありきたりでした。転校生として好奇な目で見られる恥ずかしさを紛らわすためなのです。ドゥーガルも他のクラスメイトも、理由が普通過ぎてがっかりしていました。ぼくも「それだけ？」と物足りない気持ちになりました。辛い過去があって顔にひどい傷あとがあると予想していたからです。そんな様子を見ていたトミーは悲しそうに、「わかってる。だからもうこんなことやめてほしい…」と口にしていました。ぼくはこの時お姉ちゃんを傷つけた時と同じくらい胸が苦しくなりました。みんなと違う見た目のトミーに、まわりが勝手に特別な理由を期待したせいです。期待が重しになって、トミーの心のかさぶたを自分ではがせなくなっているのだと、ぼくはこのセリフでやっと気づきました。

初めて会った人に自己紹介する時、ぼくは女の子の名前と思われて名前を聞き直されることがあります。だけど嫌な気持ちにはなりません。ある書物の一節が名前の由来だと説明すると、みんな納得してくれるからです。でも理由が自分でも分からなかったり、みんなが共感してくれないことだったらどうだろう。きっとトミーのように、まわりに受け入れてもらえないかもしれないと思って、怖くなって最後は何も言えなくなってしまうと思いました。

バラクラバボーイの正体は実は女の子でした。伏線があったのか何度も読み返しましたが、見つかりません。そして思いました。自分の物差しだけで考えていたら、かさぶたの扱い方も、本当の姿も知ることができないのです。ぼくはこの本を読んで、自分の当たり前と違う見た目や違う考えの人と出会って友だちになりたいと思った時は、違うことの理由を探すより、その人のことを大事に思っているということ、言葉や行動で伝えることができる人になりたいと思いました。

（「バラクラバ・ボーイ」ジェニー・ロブソン、絵・黒須高嶺、訳・もりうちすみこ／文研出版）